

福島県郡山市における定期予防接種実施状況 —過去9年間の推移と平成18年度MR速報値—

福島県郡山医師会 太神 和廣（おおがチャイルドクリニック）

二宮 規郎（寿泉堂総合病院）

菊池 辰夫（菊池小児科医院）

最近の法改正や実施要領の変更に伴い地域での予防接種実施状況も年毎に変化している。特に平成18年度4月よりは麻しん・風しん混合ワクチンの2回接種が始まったが、対象年齢が限定されているために接種率の低下が懸念されている。今回当市において、従来の予防接種については平成18年12月末日時点、MRワクチンについては平成19年1月末日時点での予防接種実施率について接種票の全数追跡調査を行い、未接種者の把握を試みたので報告する。

《対象と方法》

郡山市における定期予防接種の接種実績を接種医療機関より郡山市地域保健課に送付された予防接種実施票により集計した。各予防接種については1) **累積接種率**すなわち各年度生まれあるいは各年度新規対象者が調査年月日までにどの程度接種されているかの追跡調査、および2) **各年齢別接種率**すなわち各年度生まれあるいは各年度新規対象者が何歳の時点で接種を受けたかの追跡調査の二者について算定した。なお乳幼児期の郡山市定期予防接種はBCG、三種混合、麻疹・風疹（またはMR）、日本脳炎は個別接種、ポリオについては集団接種で行われている。

《結果》

追跡調査による累積接種率と各年齢別接種率（別表）

1. BCG

乳幼児のBCGについては平成16年度までは累積接種率ではほぼ100%であり非常に良好な接種状況であったが、平成17年度の対象年齢の変更後においては95%に留まり、その後の接種が不可能なため5%の未接種者が出ている状況である。対象年齢が非常に限定されているため従来の100%に近い接種率を得ることはかなり困難であるといわざるを得ない。なお当市ではBCG接種は生後6カ月未満児に限られ、1歳未満までの救済措置はおこなっていない。

2. 三種混合

1期1回については累積接種率、年齢別接種率ともに比較的良好である。1期の計3回を1歳までに終了する児の割合は年毎に増加しているが平成16年度で76%に留まっている。1期3回の累積接種率は平成16年度生まれまでは90%を超えているが、1期追加の累積接種率になると平成13～15年度新規対象者では80%台に低下しており90%を超えているのは平成12年度対象者のみである。未接種者数の累積が懸念される状況である。

3. ポリオ

ポリオが中止となった年度などの影響により累積接種率に差がみられるが、平成16年度生まれまででは90%を超える接種率である。

4. 麻しん

麻疹についてはポリオ接種の見合わせのあった平成11年度以降累積接種率が90%を超えている。また1歳台での接種率も年々増加の傾向がみられ良好な接種率であるが、平成16年度では88%であった。

5. 風しん

今回の調査では風しんの累積接種率は平成11年度以降はすべて90%を超えており、前年の調査で80%台に留まっていたのに比べ大きく接種率が向上した。いままでの未接種者が平成17年度内に接種したものと考えられる。これは平成18年度MRへの移行に伴い未接種者への接種勧奨が奏功したものと思われる。

6. 日本脳炎

日本脳炎の累積接種率は平成15年度まででみると1期1回目は73～87%、1期2回目は69～83%、1期追加では53～63%であり、基礎免疫が完了しているものは半数を多少超える程度に留まっていた。平成17年度に「積極的接種勧奨の差し控え」が通知されその後の接種は実質的には行われていないため今後ますます増加する未接種者へどのように対応していくかが今後の課題である。

平成18年度麻しん・風しん混合ワクチン（MR）接種率（速報値）

平成19年1月末日時点での集計では1期の接種者は80.2%と比較的良好な接種率である（図1）。接種目標数に対しての割合では96.3%の達成率となっている。一方就学前児の2期については1月末日時点で対象者数に対して53.8%の接種率であり、目標数に対しての達成率は67.3%でありこのままのペースでは年度末での接種率は70%前後と予想される（図2）。今後年度末へむけての保護者への一層の接種勧奨が必要とされ、またこのような低接種率が来年も続くならば接種率向上にむけての来年度以降強力な対策が必要とされる。また就学後の未接種者へのキャッチアップ接種を行う救済措置も必要と思われる。

《考 察》

今回最近9年間の定期予防接種実施状況を調査したが、最近の法改正や実施要領の変更が行われるまでは各予防接種ともに接種率は徐々に改善の傾向がみられていた。しかし近年の相次ぐ予防接種制度の変更後のデータからみると、予防接種率向上の観点からいくつかの問題点が明らかになってきたと思われる。すなわち①BCG対象年齢の縮小に伴う接種率の低下、②MR2回法の対象年齢の限定化に伴う接種率の低下、特に就学前児での低接種率の懸念、③日本脳炎積極的接種勧奨の差し控えに伴う大量の未接種者の発生 の三点である。

これらの点を解決するためには、現行の予防接種法制度下で必然的に発生する未接種者を救済するシステムを国レベルあるいは自治体レベルで早急に構築する必要があると考える。

図1. 平成18年度郡山市MR-1期接種者数
(07年1月末現在)

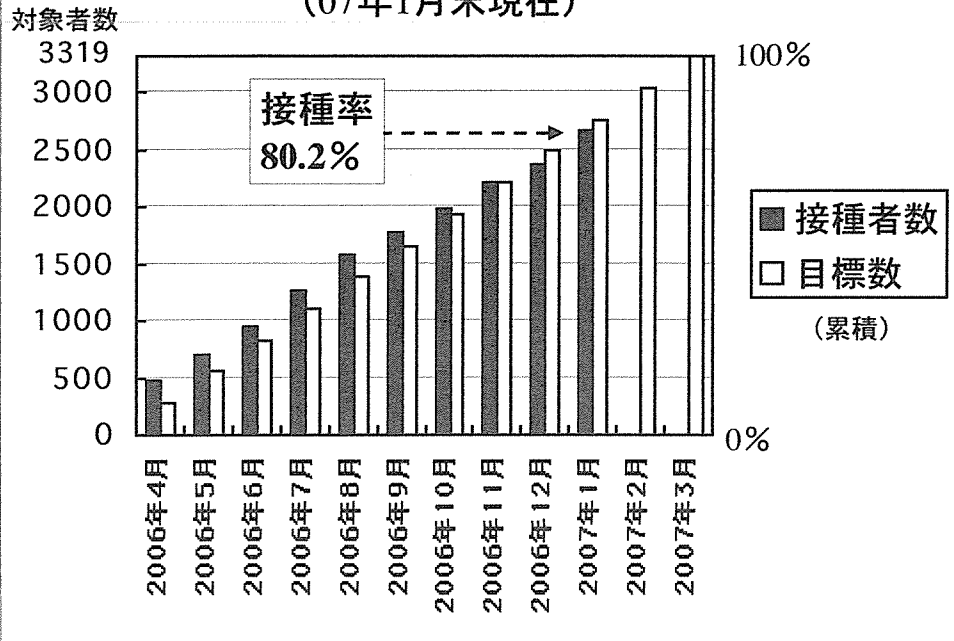
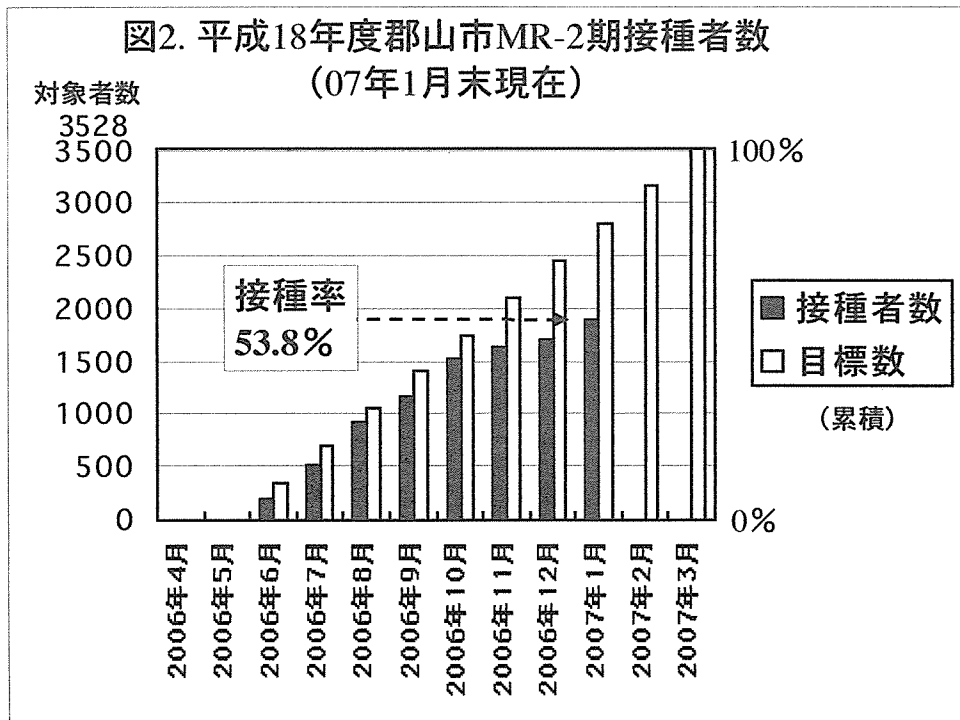


図2. 平成18年度郡山市MR-2期接種者数
(07年1月末現在)



各予防接種の年度別対象者・接種者数及び追跡調査（接種数・未接種者数状況）
郡山市年齢階層別集計 平成18年12月31日現在

B C G 対象年齢： 生後3月から4歳未満まで（H17以降0か月～6か月未満）

	0歳～		1歳～		2歳～		3歳～		4歳～		5歳～		6歳～		7歳～		合計	未接種者 残数計	接種率
	対象者 0歳児	1歳未満	接種率	2歳未満	接種率	3歳未満	接種率	4歳未満	接種率	5歳未満	接種率	6歳未満	接種率	7歳未満	接種率				
平成10年度	3,383	2,734	80.8%	557	16.5%	94	2.8%	42	1.2%	3,427	-44	101.3%							
平成11年度	3,539	3,274	92.5%	268	7.6%	90	2.5%	55	1.6%	3,687	-148	104.2%							
平成12年度	3,464	3,101	89.5%	232	6.7%	77	2.2%	44	1.3%	3,454	10	99.7%							
平成13年度	3,431	3,232	94.2%	117	3.4%	61	1.8%	85	2.5%	3,495	-64	101.9%							
平成14年度	3,412	3,226	94.5%	168	4.9%	85	2.5%		0.0%	3,479	-67	102.0%							
平成15年度	3,408	3,344	98.1%	234	6.9%		0.0%		0.0%	3,578	-170	105.0%							
平成16年度	3,416	3,476	101.8%		0.0%		0.0%		0.0%	3,476	-60	101.8%							
平成17年度	3,278	3,124	95.3%		0.0%		0.0%		0.0%	3,124	154	95.3%							
平成18年度	3,103	2,423	78.1%		0.0%		0.0%		0.0%	2,423	680	78.1%							

ポリオ 1回目 対象年齢： 生後3月から7歳6か月未満まで

	0歳～		1歳～		2歳～		3歳～		4歳～		5歳～		6歳～		7歳～		合計	未接種者 残数計	接種率	
	対象者 0歳児	1歳未満	接種率	2歳未満	接種率	3歳未満	接種率	4歳未満	接種率	5歳未満	接種率	6歳未満	接種率	7歳未満	接種率					
平成10年度	3,383	3,105	91.8%	374	11.1%	44	1.3%	12	0.4%	14	0.4%	0	0.0%	9	0.3%	1	0.0%	3,559	-176	105.2%
平成11年度	3,539	3,093	87.4%	817	23.1%	88	2.5%	23	0.6%	19	0.5%	12	0.3%	2	0.1%	6	0.2%	4,060	-521	114.7%
平成12年度	3,464	2,127	61.4%	566	16.3%	98	2.8%	32	0.9%	16	0.5%	7	0.2%	14	0.4%		0.0%	2,860	604	82.6%
平成13年度	3,431	2,763	80.5%	477	13.9%	85	2.5%	28	0.8%	11	0.3%	7	0.2%		0.0%		0.0%	3,371	60	98.3%
平成14年度	3,412	2,182	64.0%	394	11.5%	71	2.1%	16	0.5%	13	0.4%		0.0%		0.0%		0.0%	2,676	755	78.0%
平成15年度	3,408	2,926	85.9%	390	11.4%	70	2.1%	14	0.4%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	3,400	8	99.8%
平成16年度	3,416	2,959	86.6%	353	10.3%	64	1.9%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	3,376	40	98.8%
平成17年度	3,278	2,642	80.6%	410	12.5%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	3,052	226	93.1%
平成18年度	3,103	2,577	83.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	2,577	526	83.0%

ポリオ 2回目 対象年齢： 生後3月から7歳6か月未満まで

	0歳～		1歳～		2歳～		3歳～		4歳～		5歳～		6歳～		7歳～		合計	未接種者 残数計	接種率	
	対象者 0歳児	1歳未満	接種率	2歳未満	接種率	3歳未満	接種率	4歳未満	接種率	5歳未満	接種率	6歳未満	接種率	7歳未満	接種率					
平成10年度	3,383	1,098	32.5%	2,056	60.8%	237	7.0%	59	1.7%	151	4.5%	18	0.5%	12	0.4%	6	0.2%	3,619	-236	107.0%
平成11年度	3,539	1,333	37.7%	1,534	43.3%	384	10.9%	105	3.0%	68	1.9%	18	0.5%	18	0.5%	9	0.3%	3,469	70	98.0%
平成12年度	3,464	666	19.2%	1,734	50.1%	347	10.0%	69	2.0%	29	0.8%	15	0.4%	17	0.5%		0.0%	2,877	587	83.1%
平成13年度	3,431	1,111	32.4%	1,945	56.7%	260	7.6%	79	2.3%	25	0.7%	20	0.6%		0.0%		0.0%	3,440	-9	100.3%
平成14年度	3,412	1,077	31.6%	1,491	43.7%	284	8.3%	70	2.1%	24	0.7%		0.0%		0.0%		0.0%	2,946	466	86.3%
平成15年度	3,408	1,055	31.0%	1,774	52.1%	273	8.0%	69	2.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	3,171	237	93.0%
平成16年度	3,416	1,154	33.8%	1,745	51.1%	284	8.3%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	3,183	233	93.2%
平成17年度	3,278	948	28.9%	1,639	50.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	2,587	691	78.9%
平成18年度	3,103	832	26.8%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	832	2271	26.8%

三種混合 1回目 対象年齢： 生後3月から7歳6か月未満まで

	0歳～		1歳～		2歳～		3歳～		4歳～		5歳		6歳～		7歳～		合計	未接種者 残数計	接種率
	0歳児	1歳未満	2歳未満	3歳未満	4歳未満	5歳未満	6歳未満	7歳未満	8歳未満	9歳未満	10歳未満	11歳未満	12歳未満	13歳未満	14歳未満	15歳未満			
平成10年度	3,383	2,916	398	87	43	33	26	15	11	2	2	3,488	-105	103.1%					
平成11年度	3,539	2,940	299	89	89	75	22	16	14	1	1	3,424	115	96.8%					
平成12年度	3,464	2,851	338	75	96	26	20	13	13	0.4%	0.0%	3,406	58	98.3%					
平成13年度	3,431	3,093	254	79	23	23	9	7	0.2%	0.0%	0.0%	3,472	-41	101.2%					
平成14年度	3,412	3,072	256	55	1.6%	22	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3,415	-3	100.1%					
平成15年度	3,408	3,181	203	45	1.3%	45	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3,451	-43	101.3%					
平成16年度	3,416	3,155	166	47	1.4%	47	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3,368	48	98.6%					
平成17年度	3,278	2,978	90	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3,068	210	93.6%					
平成18年度	3,103	2,284	73.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2,284	819	73.6%					

三種混合 2回目 対象年齢： 生後3月から7歳6か月未満まで

	0歳～		1歳～		2歳～		3歳～		4歳～		5歳		6歳～		7歳～		合計	未接種者 残数計	接種率
	0歳児	1歳未満	2歳未満	3歳未満	4歳未満	5歳未満	6歳未満	7歳未満	8歳未満	9歳未満	10歳未満	11歳未満	12歳未満	13歳未満	14歳未満	15歳未満			
平成10年度	3,383	2,662	615	96	2.8%	57	1.7%	24	0.7%	21	1.0%	3,503	-120	103.5%					
平成11年度	3,539	2,680	425	106	12.0%	45	1.3%	22	0.6%	11	0.3%	3,325	214	94.0%					
平成12年度	3,464	2,582	581	101	16.8%	133	3.8%	16	0.5%	19	0.5%	3,456	8	99.8%					
平成13年度	3,431	2,911	411	85	12.0%	44	1.3%	8	0.2%	0.0%	0.0%	3,476	-45	101.3%					
平成14年度	3,412	2,851	392	87	11.5%	25	0.7%	18	0.5%	0.0%	0.0%	3,373	39	98.9%					
平成15年度	3,408	2,919	342	61	10.0%	22	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3,344	64	98.1%					
平成16年度	3,416	2,952	272	74	8.0%	74	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3,298	118	96.5%					
平成17年度	3,278	2,770	191	5.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2,961	317	90.3%					
平成18年度	3,103	2,123	68.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2,123	980	68.4%					

三種混合 3回目 対象年齢： 生後3月から7歳6か月未満まで

	0歳～		1歳～		2歳～		3歳～		4歳～		5歳		6歳～		7歳～		合計	未接種者 残数計	接種率
	0歳児	1歳未満	2歳未満	3歳未満	4歳未満	5歳未満	6歳未満	7歳未満	8歳未満	9歳未満	10歳未満	11歳未満	12歳未満	13歳未満	14歳未満	15歳未満			
平成10年度	3,383	2,291	485	129	14.3%	61	1.8%	31	0.9%	35	1.0%	3,056	327	90.3%					
平成11年度	3,539	2,451	664	142	18.8%	49	1.4%	16	0.5%	16	0.5%	3,376	163	95.4%					
平成12年度	3,464	2,223	813	120	23.5%	146	4.2%	19	0.5%	17	0.5%	3,366	98	97.2%					
平成13年度	3,431	2,474	627	109	18.3%	61	1.8%	14	0.4%	0.0%	0.0%	3,303	128	96.3%					
平成14年度	3,412	2,534	623	119	16.3%	33	1.0%	12	0.4%	0.0%	0.0%	3,321	91	97.3%					
平成15年度	3,408	2,599	557	84	16.3%	29	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3,269	139	95.9%					
平成16年度	3,416	2,626	443	67	13.0%	67	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3,136	280	91.8%					
平成17年度	3,278	2,526	318	9.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2,844	434	86.8%					
平成18年度	3,103	1,893	61.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1,893	1210	61.0%					

三種混合 追加

対象年齢： 生後3月から7歳6か月未満まで

対象者 1歳児	1歳～		2歳～		3歳～		4歳～		5歳		6歳～		7歳～		未接種者	
	1歳児	2歳未満	3歳未満	4歳未満	3歳未満	4歳未満	5歳未満	6歳未満	6歳未満	7歳未満	7歳未満	7歳5月	合計	残数計	接種率	
平成10年度	3,589	1,004	1,210	33.7%	390	10.9%	103	2.9%	79	2.2%	65	1.8%	2,879	710	80.2%	
平成11年度	3,448	1,125	1,249	36.2%	314	9.1%	111	3.2%	85	2.5%	61	1.8%	2,968	480	86.1%	
平成12年度	3,632	1,239	1,273	35.0%	326	9.0%	292	8.0%	89	2.5%	63	1.7%	3,290	342	90.6%	
平成13年度	3,555	1,209	1,209	34.0%	341	9.6%	123	3.5%	70	2.0%	29	0.8%	2,981	574	83.9%	
平成14年度	3,558	1,249	1,200	33.7%	336	9.4%	88	2.5%	56	1.6%		0.0%	2,929	629	82.3%	
平成15年度	3,513	1,384	1,138	32.4%	284	8.1%	71	2.0%		0.0%		0.0%	2,877	636	81.9%	
平成16年度	3,505	1,358	1,064	30.4%	233	6.6%		0.0%		0.0%		0.0%	2,655	850	75.7%	
平成17年度	3,505	1,373	842	24.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	2,215	1,290	63.2%	
平成18年度	3,319	1,036		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1,036	2,283	31.2%	

麻疹 対象年齢： 1歳から7歳6か月未満まで

対象者 1歳児	1歳～		2歳～		3歳～		4歳～		5歳		6歳～		7歳～		未接種者	
	1歳児	2歳未満	3歳未満	4歳未満	3歳未満	4歳未満	5歳未満	6歳未満	6歳未満	7歳未満	7歳5月	合計	残数計	接種率		
平成10年度	3,589	2,588	278	7.7%	75	2.1%	49	1.4%	28	0.8%	26	0.7%	3,052	537	85.0%	
平成11年度	3,448	3,013	252	7.3%	118	3.4%	49	1.4%	38	1.1%	27	0.8%	3,519	-71	102.1%	
平成12年度	3,632	2,693	358	9.9%	86	2.4%	53	1.5%	24	0.7%	78	2.1%	3,292	340	90.6%	
平成13年度	3,555	3,180	211	5.9%	89	2.5%	23	0.6%	50	1.4%		0.0%	3,553	2	99.9%	
平成14年度	3,558	3,267	179	5.0%	48	1.3%	75	2.1%		0.0%		0.0%	3,569	-11	100.3%	
平成15年度	3,513	3,193	85	2.4%	102	2.9%		0.0%		0.0%		0.0%	3,380	133	96.2%	
平成16年度	3,505	3,094	249	7.1%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	3,343	162	95.4%	
平成17年度	3,505	2,934		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	2,934	571	83.7%	
平成18年度									1							

風疹

対象年齢： 1歳から7歳6か月未満まで

対象者 1歳児	1歳～		2歳～		3歳～		4歳～		5歳		6歳～		7歳～		未接種者	
	1歳児	2歳未満	3歳未満	4歳未満	3歳未満	4歳未満	5歳未満	6歳未満	6歳未満	7歳未満	7歳5月	合計	残数計	接種率		
平成10年度	3,589	1,689	729	20.3%	265	7.4%	118	3.3%	72	2.0%	90	2.5%	3,014	575	84.0%	
平成11年度	3,448	2,010	605	17.5%	226	6.6%	98	2.8%	77	2.2%	96	2.8%	3,168	280	91.9%	
平成12年度	3,632	1,887	667	18.4%	257	7.1%	123	3.4%	94	2.6%	277	7.6%	3,326	306	91.6%	
平成13年度	3,555	2,206	539	15.2%	248	7.0%	114	3.2%	246	6.9%	22	0.6%	3,375	180	94.9%	
平成14年度	3,558	2,318	492	13.8%	232	6.5%	273	7.7%	17	0.5%		0.0%	3,332	226	93.6%	
平成15年度	3,513	2,424	516	14.7%	398	11.3%	29	0.8%		0.0%		0.0%	3,367	146	95.8%	
平成16年度	3,505	2,596	820	23.4%	45	1.3%		0.0%		0.0%		0.0%	3,461	44	98.7%	
平成17年度	3,505	3,269	54	1.5%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	3,323	182	94.8%	
平成18年度		42									13					

※ 1期単抗原接種者

※ 2期単抗原接種者

MR 1期 対象年齢： 12か月～24か月未満まで

対象者 1歳児	1歳～		未接種者	
	1歳児	2歳未満	合計	残数計
平成18年度	3,319	2,661	2,661	658

(平成19年1月31日現在)

MR 2期 対象年齢： 5歳以上7歳未満で 就学前の1年間

平成18年度	5歳～7歳未満		未接種者	
	対象者 1歳児	接種率	合計	接種率
3,528	1,900	53.9%	1900	53.9%

(平成19年1月31日現在)

日本脳炎 1回目 対象年齢： 生後3月から7歳6か月未満まで

平成10年度	対象者 3歳児	3歳～4歳未満		4歳～5歳未満		5歳～6歳未満		6歳～7歳未満		7歳～7歳5月		未接種者		
		接種率	接種率	接種率	接種率	接種率	接種率	接種率	接種率	合計	接種率	残数計	接種率	
平成11年度	3,710	1,883	50.8%	434	11.7%	194	5.2%	149	4.0%	50	1.3%	2,710	1,000	73.0%
平成12年度	3,668	2,079	56.7%	338	9.2%	228	6.2%	156	4.3%	60	1.6%	2,861	807	78.0%
平成13年度	3,563	1,952	54.8%	426	12.0%	187	5.2%	196	5.5%	50	1.4%	2,811	752	78.9%
平成14年度	3,458	2,269	65.6%	347	10.0%	193	5.6%	231	6.7%	11	0.3%	3,051	407	88.2%
平成15年度	3,540	2,324	65.6%	344	9.7%	31	0.9%	29	0.8%	0	0.0%	2,877	741	79.5%
平成16年度	3,491	2,244	64.3%	66	1.9%	2	0.1%	1	0.0%	0	0.0%	2,700	840	76.3%
平成17年度	3,459	469	13.6%	13	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	482	2,977	13.9%
平成18年度	3,457	12	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	12	3,445	0.3%

日本脳炎 2回目 対象年齢： 生後3月から7歳6か月未満まで

平成10年度	対象者 3歳児	3歳～4歳未満		4歳～5歳未満		5歳～6歳未満		6歳～7歳未満		7歳～7歳5月		未接種者		
		接種率	接種率	接種率	接種率	接種率	接種率	接種率	接種率	合計	接種率	残数計	接種率	
平成11年度	3,710	1,676	45.2%	446	12.0%	222	6.0%	142	3.8%	72	1.9%	2,558	1,152	68.9%
平成12年度	3,668	1,864	50.8%	368	10.0%	222	6.1%	164	4.5%	70	1.9%	2,688	980	73.3%
平成13年度	3,563	1,728	48.5%	506	14.2%	198	5.6%	203	5.7%	64	1.8%	2,699	864	75.8%
平成14年度	3,458	2,001	57.9%	404	11.7%	222	6.4%	255	7.4%	14	0.4%	2,896	562	83.7%
平成15年度	3,618	1,954	54.0%	442	12.2%	223	6.2%	35	1.0%	1	0.0%	2,655	963	73.4%
平成16年度	3,540	2,107	59.5%	426	12.0%	37	1.0%	2	0.1%	0	0.0%	2,572	968	72.7%
平成17年度	3,491	2,075	59.4%	62	1.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2,137	1,354	61.2%
平成18年度	3,459	375	10.8%	10	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	385	3,074	11.1%
平成18年度	3,457	12	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	12	3,445	0.3%

日本脳炎 追加 対象年齢： 生後3月から7歳6か月未満まで

平成10年度	対象者 4歳児	4歳～5歳未満		5歳～6歳未満		6歳～7歳未満		7歳～7歳5月		未接種者		
		接種率	接種率	接種率	接種率	接種率	接種率	合計	接種率	残数計	接種率	
平成11年度	3,566	962	27.0%	537	15.1%	233	6.5%	117	3.3%	1,849	1,717	51.9%
平成12年度	3,694	1,122	30.4%	501	13.6%	255	6.9%	143	3.9%	2,021	1,673	54.7%
平成13年度	3,642	1,189	32.6%	548	15.0%	289	7.9%	153	4.2%	2,179	1,463	59.8%
平成14年度	3,522	1,226	34.8%	543	15.4%	283	8.0%	153	4.3%	2,205	1,317	62.6%
平成15年度	3,436	1,306	38.0%	518	15.1%	326	9.5%	33	1.0%	2,183	1,253	63.5%
平成16年度	3,595	1,330	37.0%	595	16.6%	67	1.9%	4	0.1%	1,996	1,599	55.5%
平成17年度	3,539	1,464	41.4%	124	3.5%	7	0.2%	0	0.0%	1,595	1,944	45.1%
平成18年度	3,500	252	7.2%	16	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	268	3,232	7.7%
平成18年度	3,459	13	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	13	3,446	0.4%

入学児童予防接種状況調査報告（第12報）

—さいたま市平成19年度入学予定者—

太田 耕造、山崎 昭、手嶋 力男、田代 巖、
鈴木 邦明、阿部 恒保、瀬端 秀宜、高梨 邦彦（浦和医師会）
北村 勉（さいたま市与野医師会）、羽鳥 雅之（大宮医師会）
金沢 和俊（岩槻医師会）

目的

浦和医師会では、小学校入学の時点で、児童がどの程度の予防接種を受けているかを知るために、旧浦和市の協力を得て昭和61年度から麻疹、ポリオ、風疹、DPT、日本脳炎、BCG、及び任意接種である水痘、ムンプス、を含めた8種類の予防接種について調査し本研究班に報告してきた。

平成13年5月1日に浦和市、大宮市、与野市、が合併し「さいたま市」が誕生し、平成17年4月からは岩槻市が合併、今回平成18年度小学校入学予定者を対象に各予防接種の接種状況をさいたま市の協力のもと、浦和医師会、大宮医師会、さいたま市与野医師会、岩槻医師会合同で調査を行った。このことにより予防接種への関心を高め、学校教育開始にあたり、各予防接種未接種児には接種対象年齢内に接種を完了するように勧奨し、個人の保護だけでなく、社会の保護という観点から教育現場における伝染性疾患の発症を減少させることを目的とした。

調査対象および方法

さいたま市内小学校全101校の入学予定者の保護者に調査票を事前に郵送し、就学时健康診断日（前年11月実施）に回収する方法をとった。調査票は前記の8種類の予防接種既往の有無、接種回数、当該疾患の罹患の有無について、記名の上、チェックリストでチェックする方法を用いた。国立、私立小学校入学希望者も居住地区の学区内で健診を受けるため、この調査に含めた。

結果

平成19年度入学予定者は、11,520名（平成18年10月1日現在）、11,469名（99.6%）より回答を得た。各予防接種の接種率および当該疾患の罹患率、接種後罹患率を表1に、各ワクチンの接種率の年次推移を表2に示す。

考察

アンケート回答率は99.6%（昨年度97.5%）と引き続き高い回答率を得た、これは小学校入学という節目に保護者の感心も高まる時期で、提出書類の一部として扱われることでアンケートには適していると考えられた。BCG、ポリオ、DPT、麻疹など出生後2歳前頃までに接種するものに関しては保護者の意識も高いようで接種率が高いのである。麻疹に関しては今回96.1%（昨年度95.1%）で、引き続き流行阻止レベルの95%を超えたことは評価できる。未接種、未罹患及び不明者が2.0%でおよそ98%以上で何らかの形で免疫を保有しているともいえ、散発的発生はあっても集団発生の危険性は少なくなってきたと考えられる。平成18年度からは麻疹・風疹の二種混合ワクチンが現実のものとなったが、移行期の混乱と接種期間が短いため、接種率の低下も懸念され、より一層の接種勧奨が必要である。一方で今回も接種後罹患率が0.6%に認められたことは接種後年数を重ねれば、さらに接種者の中から発病者が出る可能性は高くなり、麻疹ワクチンの2回接種も実現となった今、さいたま市では”はしかゼロ・マーチ”のキャンペーン行っており、麻疹撲滅を現実のものとしたい。現時点では小学校入学時での接種後罹患率は0.6~1.8%で推移しており、接種後罹患率の増加傾向は認められない。風疹は年々接種率は上がってきており、90%を超えてきているが、麻疹との混合化で麻疹の接種率に引っ張られるかたちを望むところである。任意ワクチンのムンプス、水痘は有料のためもあり依然として接種率は低い。ムンプスは疾患として合併症も多く、ワクチン接種を積極的に勧めたい。水痘ワクチンの接種後罹患はこの時点では10.6%と予想より低く、就学後の集団発症を防ぐ意味でも接種勧奨につとめたい。平成17年4月からツ反の廃止とBCG接種が生後6ヶ月までとなり、接種率にどう影響が出るか見守りたい。

結語

教育委員会の協力で就学时健診を利用し、就学児童の予防接種状況を毎年把握し報告してきた。この結果を各医師会を通じて市民に還元し、未接種ワクチンの接種勧奨に引き続きつとめていきたい。また平成17年度からは岩槻市がさいたま市と合併し調査対象もさらに拡大し、調査対象校は86校から101校となり、11,500名前後の調査対象者となっている。本調査に多大の御協力をいただいた「さいたま市」関係者に感謝いたします。

表1: 平成19年度入学児童予防接種接種状況報告 調査数11,469名
(単位%)

	麻疹	風疹	ポリオ	三種混合	日本脳炎	BCG	水痘	ムンプス
ワクチン接種者1回	96.1%	92.6%	3.1%	0.8%	4.2%	97.5%	26.3%	36.8%
ワクチン接種者2回			95.7%	1.4%	40.8%			
ワクチン接種者3回				6.2%	34.0%			
ワクチン接種者4回				89.7%				
罹患者	1.3%	0.8%				0.5%	48.9%	21.9%
未接種・未罹患	1.8%	5.6%	1.1%	1.7%	20.6%	1.7%	13.3%	36.0%
ワクチン接種後罹患	0.6%	0.8%					10.6%	2.7%
不明	0.2%	0.3%	0.1%	0.2%	0.4%	0.2%	0.9%	2.5%

- ※ 数値の小数点2位を四捨五入
- ※ DTP4回接種者とはI期完了者
- ※ BCGの罹患者は自然陽転者

表2: 入学予定者ワクチン接種率年次推移

(単位%)

	麻疹	風疹	ポリオ	三種混合	日本脳炎	BCG	水痘	ムンプス
平成 6年度	88.3		96.7					
平成 7年度	88.7		96.3					
平成 8年度	88.3	33.7	97.4	94.9	45.9	94.1	36.9	49.9
平成 9年度	88.5	34.5	95.7	89.3	46.6	94.3	32.1	43.3
平成 10年度	89.5	41.0	94.9	86.5	46.4	94.4	33.0	39.4
平成 11年度	92.1	53.9	95.5	84.8	45.5	95.3	32.4	34.7
平成 12年度	92.9	66.0	95.2	91.0	48.8	94.9	32.3	35.9
平成 13年度	93.7	73.3	94.1	92.1	53.5	96.3	33.0	36.2
平成 14年度	93.1	76.6	95.1	92.6	58.7	94.0	27.7	30.2
平成 15年度	93.9	81.7	95.8	93.8	62.1	96.6	28.5	31.6
平成 16年度	94.0	85.6	96.1	94.2	64.4	97.0	30.6	33.5
平成 17年度	94.5	88.2	95.9	95.3	65.9	97.3	33.8	36.3
平成 18年度	95.1	89.4	98.4	97.7	84.4	97.8	34.2	37.2
平成 19年度	96.7	93.4	98.8	98.1	79.0	97.5	36.9	39.5

※ 平成13年以前では調査対象は旧浦和市の42校、約5,000名であったが、平成14年度以降は平成13年5月に浦和市、与野市、大宮市の三市合併により、さいたま市の86校、約10,000名となり、平成18年度は岩槻市の合併により100校、約12,000名となっている。

※ 麻疹、風疹、DTP、日本脳炎、BCGは平成7年度より個別接種、ポリオは平成10年度より個別接種。
日本脳炎は3回以上接種者

世田谷区医師会における予防接種実施状況について（第11報） 及びMRについて

井手 邦彦（東京都医師会感染症予防検討委員会委員、世田谷区医師会）

厚労省の「予防接種に関する検討委員会」の提言をうけて、麻疹と風疹の混合ワクチン（MR）2回接種が導入されることになり、平成17年秋よりその準備のためにいろいろな変動があり、4月改正後も制度に無理があって、現場は混乱した。更に僅か2ヶ月後には再改正された。良い方向に変わってきたが、問題疑問点が残っている。

◎ 麻疹予防接種数の月別変動について

予防接種は個別接種になり、子どもの体調の良いときにいつでも接種できるようになったにもかかわらず、麻疹にかぎらず殆どのワクチンについて接種数は毎年同じような月別変動²⁾を示しているのは興味深い。

麻疹ワクチンの月別変動を図1、2に示す。図1（平成8年～14年）は毎年殆ど同じパターンの変動を示し¹⁻²⁾4、8、10月の接種数は低く、4、10月は200件以下でポリオの接種月と重なりポリオが優先されるためであろう。世田谷区では平成15年4月のポリオの2回目接種対象者への通知に麻疹ワクチンの接種を優先するよう呼びかけたところ（図3）、図2（平成15年～17年）に示すように4、10月の接種数は例年の2倍近い数になり、平成8年から続いた月別接種数の図表のパターンにはじめて変化がみられ、年間を通して300～400の間に納まる新しい月別変動

パターンを示した。なぜか9月の接種数は450件と毎年多い。

平成14年度は12月からの4ヶ月間の接種数は例年の1.5～2倍と異常に高い数値を示している

麻疹（はしか）の予防接種がお済みでないお子さんは、
麻疹（はしか）の接種を先に受けましょう！

麻疹は感染力が強く重い病気で、現在でも毎年50名のお子さんが麻疹で死亡しています。とくに1歳から2歳のお子さんがかかりやすいため、早めの接種が必要です。

－ポリオの接種について－

年2回、4月と10月に集団接種を実施しています。

麻疹の接種後4週間は、他の予防接種ができませんので、4月の接種を受けられなかった方は、5・6月の予備日か10月にお受けください。

■予備日の日程は、5月号区報に掲載します。また、10月実施分の通知は、再度お送りしませんので、9月号の区報やHP等で日程をご確認のうえ、今回お送りした接種票と予診票を持って直接会場にお越しください。

図3 麻疹の接種を先に受けましょう

表1 麻疹ワクチン月別接種数（平成8年度～14年度）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成8年度	195	473	505	284	207	422	189	397	301	414	349	426	4,127
平成9年度	153	415	459	312	210	348	157	346	357	330	255	431	3,773
平成10年度	158	414	566	369	217	489	139	330	355	337	321	450	4,145
平成11年度	187	396	506	406	258	418	146	340	366	412	361	465	4,261
平成12年度	176	451	603	352	280	394	145	319	311	462	409	382	4,284
平成13年度	154	479	556	450	365	458	168	379	312	461	370	404	4,554
平成14年度	208	408	397	402	301	405	170	334	435	546	334	734	4,674

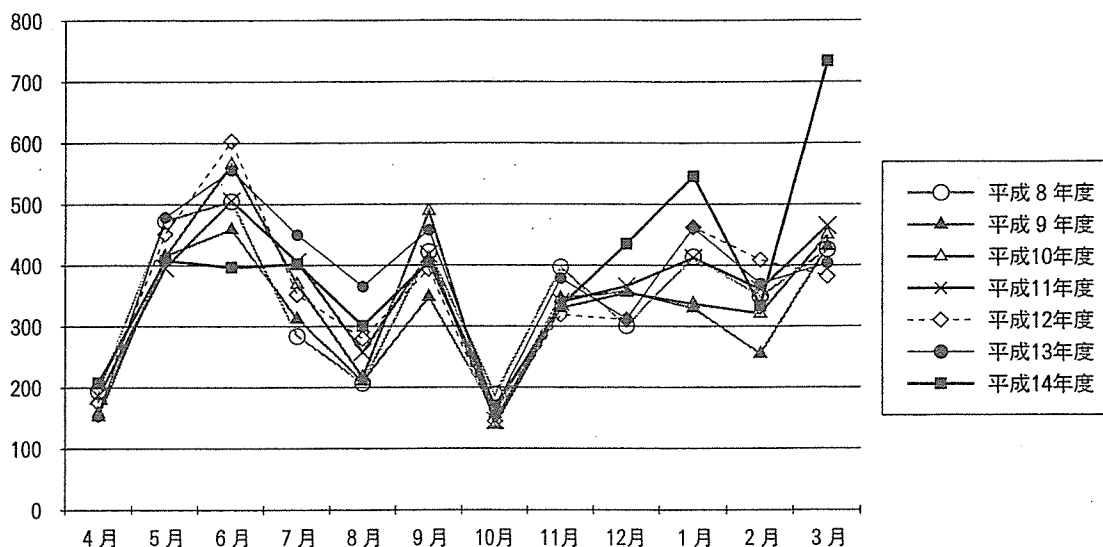


図1 麻疹ワクチン月別接種数（平成8年度～14年度）

が、この年の10～11月に世田谷区の中学校で119名の麻疹集団発生¹⁾があり、区では小中学校、保育園、幼稚園などに情報を提供し注意を呼びかけた結果、学校や園などの保健便りその他で父兄が麻疹の流行を知り接種数が飛躍的に増加したものである。また、平成6年の予防接種法改正前は夏のエンテロによる熱性疾患や、無菌性髄膜炎が多発するのでまぎれこみ事故を防ぐために夏期の接種は避けるように勧められ、行政も7月には接種票を送付しなかった。図1の8月の接種数

は平成8～10年は200件と少ないが法改正後の季節の制限がなくなったため、平成11年頃より増加しはじめ、平成13年以後は300件を越すようになった。

平成18年3月の接種数（図2）はこの10年間で最低の178件となった。これは4月からスタートするMRワクチンへの変更のため、3月の誕生日の対象者にはMRの接種票を送り、麻疹ワクチンの接種を4月まで待つようにとの通知を出したためである。これは誕生日を過ぎたらすぐ接

表2 麻疹ワクチン月別接種数（平成15年度～18年度）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
平成15年度	334	361	391	383	300	455	353	270	281	431	350	429	4,338
平成16年度	283	360	385	324	320	458	302	258	229	424	285	419	4,047
平成17年度	287	391	352	315	350	486	293	326	304	424	426	178	4,132
平成18年度	225	512	431										

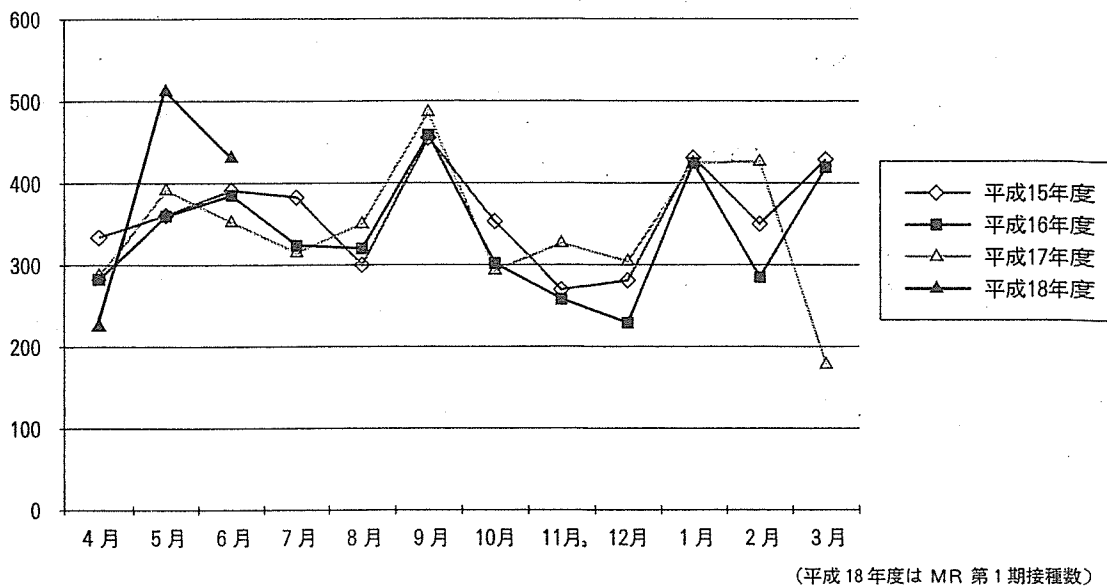


図2 麻疹ワクチン月別接種数（平成15年度～18年度）

種をと提唱してきた小児科医の立場を無視した通知と思われる。

この178例のうち1歳3ヶ月未満の接種者は87人（49％）で、2歳以上のかけこみ接種者は40人（22.5％）で通常2歳以上の接種数は毎月3％（10～15人）前後であるのにその3倍近い異常な増加を示している。

◎ 麻疹ワクチン年齢別接種数

日本小児科学会の予防接種感染症対策委員会³⁾（細矢光亮、岡部信彦、加藤達夫）は厚労省に対し以下のような提言を行った。

- (1) 麻疹ワクチンは、12～15ヶ月までに接種

することを勧める

- (2) 1歳6ヶ月健診、3歳健診、および小学校入学時健診の際に予防接種歴を確認し、未接種者に対してはワクチン接種を強く勧める。
- (3) 将来的には、麻疹ワクチンの2回接種法の導入を検討すべきである。

麻疹ワクチンの接種は12～18ヶ月を接種の標準年齢としていたが、12～15ヶ月に改正され、1歳の誕生日を過ぎたらなるべく早く接種することとし、平成16年1月より実施されている（厚労省健康局長通達）。

世田谷区医師会における平成16年1月から平成17年12月までの年齢別の接種数を表3と図4、

表3 麻疹ワクチン年齢別接種数

(世田谷区医師会)

平成16年度

	12~15月	15~18月	18~24月	2~3歳	3~4歳	4歳以上	計	対象者数
H16. 1月	344	55	24	2	2	1	428	295
H16. 2月	275	39	18	8	4	5	349	305
H16. 3月	375	60	25	8	10	4	482	298
H16. 4月	194	37	29	9	10	4	283	381
H16. 5月	282	37	21	6	10	4	360	357
H16. 6月	297	39	32	10	5	2	385	377
H16. 7月	256	29	25	5	8	1	324	369
H16. 8月	280	15	14	5	5	1	320	368
H16. 9月	413	25	17	3	0	0	458	394
H16. 10月	255	27	14	1	3	2	302	369
H16. 11月	233	16	6	2	1	0	258	374
H16. 12月	199	18	8	1	3	0	229	356
計	3,403	397	233	60	61	24	4,178	4,243
(%)	81.45	9.50	5.58	1.44	1.46	0.57	100	

平成17年度

	12~15月	15~18月	18~24月	2~3歳	3~4歳	4歳以上	計	対象者数
H17. 1月	371	29	18	3	2	1	424	345
H17. 2月	247	22	8	2	4	2	285	374
H17. 3月	326	51	26	8	4	4	419	351
H17. 4月	218	47	15	7	0	0	287	374
H17. 5月	319	51	13	5	2	1	391	362
H17. 6月	272	36	34	5	5	0	352	379
H17. 7月	260	26	16	6	5	2	315	399
H17. 8月	297	22	24	5	2	0	350	385
H17. 9月	411	42	26	5	2	0	486	378
H17. 10月	228	30	15	8	6	6	293	384
H17. 11月	278	28	10	6	2	2	326	381
H17. 12月	269	17	13	3	0	2	304	366
計	3,496	401	218	63	34	20	4,232	4,478
(%)	82.61	9.48	5.15	1.49	0.80	0.47	100	

%	12~15ヶ月	12~18ヶ月	12~24ヶ月	2歳以上
平成16年度	81.45	90.95	96.53	3.47
平成17年度	82.61	92.09	97.24	2.78

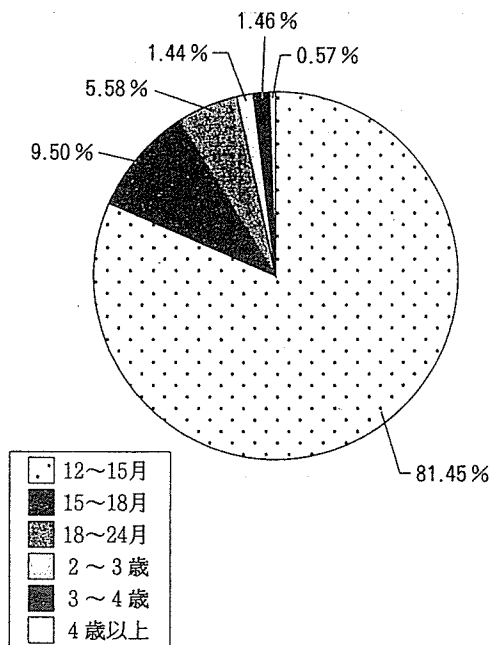


図4 麻疹ワクチン年齢別接種率（平成16年）

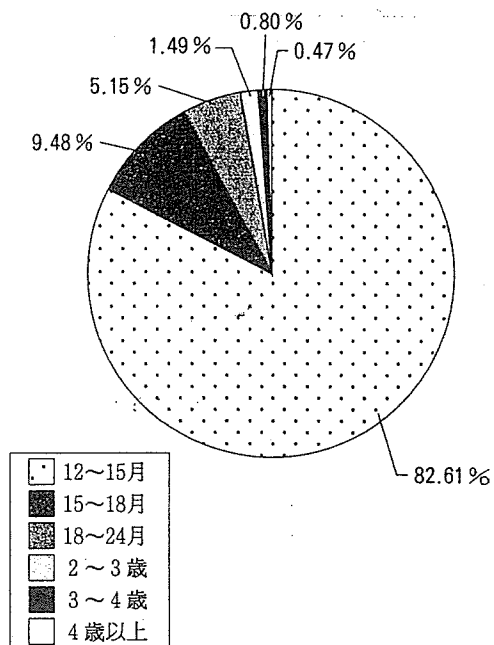


図5 麻疹ワクチン年齢別接種率（平成17年）

5に示す。年齢別の接種数の結果は2年間とも2歳以上の接種数は3%前後でかなり好成績であり、医師会員の努力によるものではあるが、母親の関心と知識の高さが感じられる。

注射は受けたくない、副作用があり危険である、自然に罹患したほうがよい、などと予防接種を忌避する人も1%以上いるものと思われるが、そのような人は医師に相談することも少ないので実態の把握や説明、説得する機会はほとんどないと思われる。定期的予防接種を受けるか否かの判断は法律上保護者の自由な意志に基づき、かつ保護者の責任で決定するものであるので十分な情報提供と説明により同意を得ることが必要であろう。

平成18年4月よりMR接種となり、年齢も2歳までときびしくなったが、厚労省の見解は⁴⁾「一定の接種機会の付与としての期間ないし年齢幅は必要合理的限定的にしなければならないとし、

接種率確保のため長期間の接種機会を付与すべきであるとの見解もあるが、副作用被害が不可避免的に発生することから公権力による積極的勧奨にかかわる接種の機会を長期に確保すればよいとの判断は採用できない」ということで、行政及び接種医の立場を考慮したものではあるが、子どもにやさしい予防接種法のあり方を考えてほしい。

◎ 風疹ワクチン月別接種数

平成18年4月からの法改正のため、3月までに接種を終了するようにいままで1歳6ヶ月に配布していた風疹の接種票を1歳時に送付したことで、毎月350件前後の配布数が10月には2,000件近い数になり、平成18年1月～3月（平成17年度）の接種数が大きく増加した。とくに4月以降は任意接種で有料になるということで3月下旬には2歳以上のかけこみ希望者が殺到し、ワクチン品切

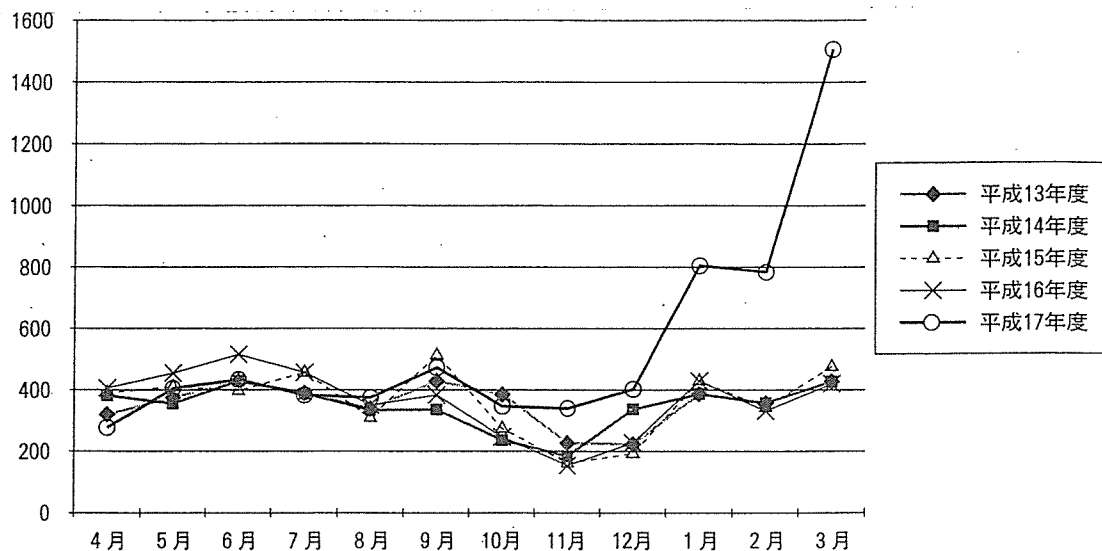


図6 風疹ワクチン月別接種数

れの状態に困惑した医院も多かった。このワクチンの不足は7月下旬まで続いた。図6に示すように1、2月は約2倍、3月は1,500件と4倍近い異常な増加を示した。

◎ MR1期について

平成18年4月にスタートしたMR1期の接種数は3、4月の2ヶ月分としてかなりの数が期待されていたのに225件と少なかった。これは改正のごたごたのため保健所がポリオの時の“麻疹ワクチン優先”のお知らせ(図3)を同封しなかったためであろう。5月は512件、6月は431件と例年を上回る接種数で(図2)この後はいつもの月別接種数のパターンにもどると思われる。個別の情報通知の重要性を改めて考えさせられた。

◎ MR2期について

MR2回目の接種は小学校入学前1年間の者(5～7歳)となったが2回接種の有効性および

安全性が是認されるまでは〔2年以内(2000年)を目途に認められる予定であるが〕2回目の接種は認められないという経過措置が規定された。ただMもRも両方とも受けてない5～7歳の2回目のMR該当者は1回目の接種として受けられるという立場で、3月末に来年度入学予定者に通知を出した。世田谷区では6,093人に通知してたった6人(7月現在)希望者がいた。これは11月頃に行う就学前検診の時にチェックすれば済むことで、無駄な浪費としか思えない。しかも2ヶ月後の6月に再改正されて経過措置ははずされ、全員2期として接種できることになり、再び6,000人余りの該当者に通知が出された。

しかも7月下旬に一斉に出されたので、8～10月のMR接種者は通常の10倍近くなる恐れがあり、現場の混乱とワクチンの品切れも心配される。2期の接種はブースターのためであり、来年3月までに接種するように接種票の送付は4～5回に分けて出すことを考えてほしかった。今回

の改正についての厚労省からの通達⁵⁾の中に留意事項の4として『第2期の予防接種の対象者に接種勧奨を行う場合にあっては、改正政令の円滑な施行の確保に配慮しつつ、被接種者の接種の便宜も併せ勘案して改正政令の直後に接種勧奨の過度に集中することのないよう、平成18年度においては計画的な接種勧奨につとめること』とあるのに混乱がおきなければよいのだが。

◎ ブースターについて

麻疹ウイルスに侵襲された場合、免疫能の程度により次の5段階が考えられる(第9報)¹⁾。

- ① 感染し発病した
- ② 感染したがSVF(二次性ワクチン不全)で修飾麻疹の症状を呈した
- ③ 感染したがsubclinical infectionで症状は殆どなく麻疹とは気づかなかった
- ④ 感染したが不顕性感染で症状はないがブースター効果で抗体価の上昇が見られた
- ⑤ 感染発病がなかった。抗体価の変化はない

庵原(国立三重病院院長)⁶⁾は表4を示し、麻疹においてブースター反応のおこる抗体レベルは800mIU/ml以下(マイクロ中和法 \leq 16倍)、SVFが発症する抗体レベルは120mIU/ml以下(マイクロ中和法 \leq 2倍)である。2回目の接種を受けると、受けた後すべてがブースター効果を受けるとするのは誤解であると注意をうながしている。なお侵襲するウイルス量(濃厚感染など)も関与するのではないだろうか。

またMRの2回目の接種時期はSVF対策を重視する国では10歳頃に、接種洩れ者対策およびPVF対策を重視する国では5~6歳に接種を行っている。MMR2回接種開始後に麻疹流行を経験した米国の結果では⁶⁾、5~6歳に2回目接種をしていた州も、10歳頃に2回目接種をしていた州も発症率は同じであった。この結果から、

表4 マイクロ中和法による抗体価と感染防御

NT (2 ^o)	国際単位 (mIU/ml)	麻疹患者と曝露後
8	10,000	感染なし
7	5,000	感染なし
6	2,500	感染なし
5	1,250	感染なし

		800mIU/ml
4	613	抗体ブースター
3	300	抗体ブースター
2	150	抗体ブースター/SVF

		120mIU/ml
1	75	再感染(SVF)

SVF: 二次性ワクチン不全

(『庵原俊昭』: 小児保健研究, 64巻5号, 2005)

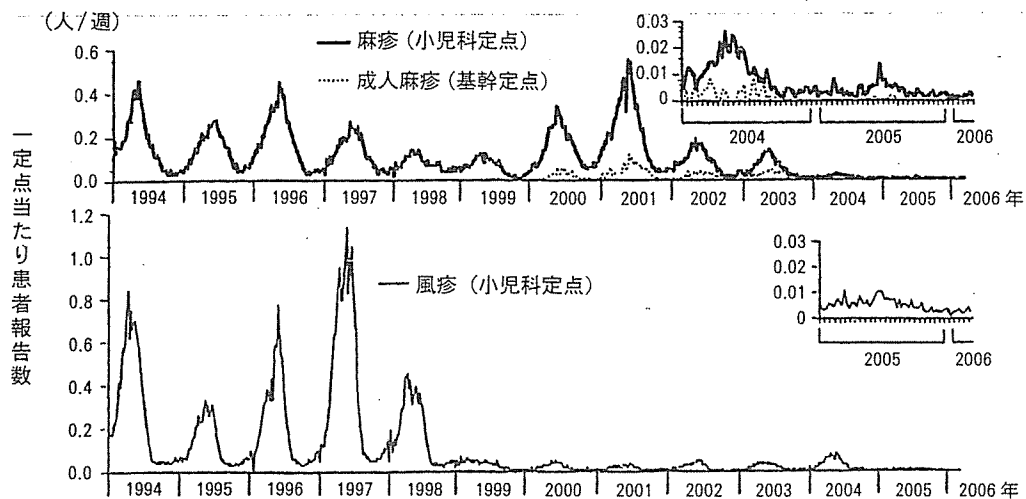
米国では小学校での流行阻止を目指して、5~6歳での2回目接種を奨励している。我が国では、今年から始まったMR2回接種の成果はどうなるのだろうか。今後の調査研究が期待される。

◎ 麻疹の現状について

米国ではCDCの発表⁷⁾で2004年の麻疹患者数は37人で過去最低(2002年は44人)となった。37人中27人は米国外で感染(中国:13、インド:4、バングラデシュ:2、タイ:2、その他)、年齢別では18人は1~4歳、7人が5~19歳であった。

それに比べて我が国の患者数はまだまだ多いが、図7⁸⁾に示すように麻疹風疹の患者数はかなり低くなり、麻疹は2001年定点当たり11.20(全国推計数28.6万人)と多かったが、2003年2.72(5.5万人)、2004年0.51(1.2万人)、2005年0.18(4,200人)と大きく減少している。

本年4~6月に茨城県及び千葉県にて麻疹の集団発生⁹⁾があり、100人を超す症例数が報告され、ワクチン接種歴のある者の発病も多かったが、SVFで軽症であった場合など症状が典型的でな



(1999年12週以前は成人麻疹を含む) (感染症発生動向調査: 2006年3月3日現在報告数)

図7 麻疹、風疹患者数報告数の推移(定点当たり)

い時には、他の熱性疾患との鑑別が困難なことがあるが、その場合も感染源とはなりうるので警戒が必要である。定点からの届出基準は①全身の発疹(回復期には色素沈着を伴う) ②発熱 ③カタル症状(咳嗽、鼻汁、結膜充血)のすべてが揃っているもの、となっているので、SVFなどは報告から洩れることになる。成人麻疹の届出基準を参考にして全数把握に切り替える必要がある。

SVFも軽症とは限らず千葉県こども病院の報告¹⁰⁾によれば6月に5例の麻疹患者が入院したが、4例はSVFでその1例(12歳男児)は脳炎を合併し、傾眠傾向、意識障害があった。他の3例もコブリック(-)色素沈着が弱いなど非定型的であったが、発熱が1週間以上続き、全身の消耗が激しかったため入院を要したもので、一般にいわれるような軽症例ではなかった。

最後に

予防接種の接種率を向上させるには、一般の人に理解してもらうために資料やポスターなどは必

要だが、あまり効果は期待できない。今回の報告で分かるように、保健所などからの個別のお知らせや情報提供は接種数に大きく影響している。しかし、その内容を医師会員に知らされていないことが多く、いろいろな不都合や混乱がおこることがある。区民へのお知らせや行政の方針は、実際に接種を行う医師会の同意と検討が得られるようにしてほしい。医師会も会員に必要な情報はこまめに提供してほしい。子どもにやさしい、子どものための予防接種であってほしい。

本研究は厚生労働科学研究費の補助を受けた。

文献

- 1) 井手; 東京都医師会雑誌、第1~10報、Vol. 49~58, 1996~2005.
- 2) 井手; 小児保健研究; Vol.61, No.3, 2002.
- 3) 細矢、岡部、加藤; 日本小児科学会雑誌、107, 2003 (予防接種感染症対策委員会).
- 4) 前田光哉; 小児保健研究; Vol.65, No.2, 2006.

- 5) 厚労省結核感染症課長 通達, H18.5.31 (予防接種法の一部を改正する省令の施行について).
- 6) 庵原俊昭; 小児保健研究, Vol.64, No.5, 2005.
- 7) MMWR, 2005, 12, 9 (CDC; 米国の麻疹発症者数).
- 8) IASR; Vol.27, No.4, 2006.8.1 (特集、麻疹・風疹 2006年3月現在).
- 9) IDWR; Vol.8, No.16. (関東における麻疹の集団発生、注目すべき感染症).
- 10) 星野、阿倍 (千葉県こども病院); IASR; 2006.8.1.

京都府専門的予防接種事業における 麻疹風疹混合生ワクチン接種状況

有本 晃子、杉本 徹（京都府立医科大学）

京都府では平成 7 年より専門的予防接種事業として、より多くの子どもが予防接種の機会を得られることを目的とし、市町村から依頼された「接種要注者」に対する接種を、専門的予防接種機関病院にて行っている。当事業の実施状況については本研究班において報告してきたが、今年度は平成 18 年 4 月より開始された麻しん風しん混合生ワクチン（以下 MR ワクチン）の接種状況について報告する。

【結果】

申込数は 49 件で、全例に接種を行った。

申込時基礎疾患はアレルギー疾患が 49 件中 45 件 91.8%と大半であり、45 件中 44 件 97.8%は食物アレルギーであった（表 1）。なお食物アレルギーの者はすべて卵に対するアレルギーを持っていた。

49 件中 48 件は、規定量を接種したが、1 件のみ減量接種されていた。

皮膚テストは 43 件（皮内テスト 34 件、プリックテスト 9 件）に実施されたが、すべて陰性であった。

副反応については、急性および重篤なものは認めなかった。副反応に関する回答率は 61.2%であったが、「副反応あり」と回答したもの 3 件（6.1%）の内容は、発疹、発熱などであった（表 4）。

【まとめ】

MR ワクチン申込者の基礎疾患は従来の麻疹ワクチン（91.2%、平成 15 年度安全なワクチン確保とその接種方法に関する総合的研究報告書）と同様、アレルギー疾患（特に卵アレルギー）が大半であった。皮膚テストでの陽性率は従来の麻疹ワクチン（皮内テスト陽性率 13.7%、上記報告書）に比べて低い印象があるが、例数が少ないので今後実施数を増やし検討する必要がある。今年度の接種例においては重篤な副反応はなかったと考えられるが、調査はがきの返送がなかったものについても積極的に調査を行い、MR ワクチンの安全な接種のために副反応に関しても情報を集積することが必要であると考えられる。

本研究に御協力いただいた京都府立与謝の海病院山添一郎先生、独立行政法人国立病院機構南京都病院徳永修先生、公立山城病院永井秀之先生に深謝致します。

表1 申し込み時基礎疾患(件、重複あり)

アレルギー疾患	45	食物アレルギー	44
		気管支喘息	1
過去の予防接種副反応	2	インフルエンザワクチン	1
		BCG	1
神経疾患	3	先天性水頭症	1
		脳梗塞後	1
		てんかん	1
その他	2	先天性胆道閉鎖	1
		心室中隔欠損	1

表2 接種方法(件)

1回で規定量	46
1回で減量	1
分割で規定量	2

表3 皮膚テスト(件)

行った	43	皮内テスト	34
		プリックテスト	9
行わなかった	6		

表4 副反応(件)

あり	3	接種後1日目、下半身、首を中心に全身に細かい発疹、皮膚かさかさ。9日目38.6℃の発熱1日間
		接種後4日目、腹、背中に細かい汗疹様発疹。
		接種後14日目発熱39.5℃3日間
なし	27	
不明	19	